



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA  
Jonathan Nott, Music Director

## 東京交響楽団 楽員オーディション募集要項

募集	コンサートマスター 1名	
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1コンサートマスターのサイドでの演奏を主な業務内容とします。</li> <li>・コンサートマスター業務を含みます。</li> </ul>	
試験曲	第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲 第4番、第5番より1曲の第1楽章(カデンツァあり) ※書類審査後、指定の協奏曲を通過者に案内します。 ※出版社指定なし</li> <li>②オーケストラスタディ *書類審査後、通過者に送付いたします。</li> </ul>
	第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 より第1楽章(カデンツァあり) ※クライスラー版</li> <li>②オーケストラスタディ</li> </ul>
日時・会場	第1次	2024年11月18日(月) 11:00~ 会場:クラシック・スペース★100 (JR中央総武線「大久保駅」北口徒歩1分)
	第2次	2024年12月4日(水) 18:00~(予定) 会場:ミューザ川崎シンフォニーホール (JR東海道線 川崎駅西口徒歩3分)
	第3次	2025年2月以降のオーケストラ公演への出演。音楽監督指揮の公演を含む5公演程度を想定。日程応相談。 ※オーケストラ規定による出演料を支給。
応募資格	国籍 性別 年齢 学歴を問いません。	
待遇	楽団規定給与:259,000円(正団員、22歳、オーケストラ経験なし、扶養家族なしの場合) 社会保険完備、交通費支給、ステージ衣装貸与、賞与・退職金制度(勤続25年以上)あり、諸手当あり オーディション合格者は、12ヶ月間未滿の試用期間を経た後、本採用となります。	
応募方法	楽団所定の応募用紙に記入し、推薦状を添えて、 2024年10月4日(金)午後6時必着で下記へ送付、または持参して下さい。 締切過ぎてからの到着分については、受理いたしませんのでご注意ください。 応募用紙は下記事務局へ請求、またはホームページよりダウンロードしてください。	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>*1次審査前に書類選考を行います。選考の結果は通過者にのみ郵送で10月中旬にお知らせいたします。</li> <li>*審査結果についてのお問合せには応じかねます。</li> <li>*オーケストラスタディは書類審査後、通過者に送付いたします。</li> <li>*1次・2次審査の伴奏ピアニストは、各自でご手配ください。</li> <li>*応募用紙について               <ul style="list-style-type: none"> <li>①所定の応募用紙以外でのお申し込み、締切日時を過ぎた後の提出は受け付けません。</li> <li>②応募用紙は出来るだけ細かくご記入ください。志望動機が書かれていないものは受け付けません。</li> <li>③提出されました応募用紙は返却いたしませんのでご了承ください。</li> </ul> </li> <li>*その他のオーディション参加にかかる費用は、すべてご本人の負担となります。</li> <li>*入団後の当楽団の配置(ポジション)に関しましては、音楽監督が権限を持っています。</li> </ul> 以上、ご不明な点がございましたら下記へお問い合わせ下さい。	
郵送先 お問合せ先	〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310ミューザ川崎セントラルタワー5階 公益財団法人 東京交響楽団 オーディション係 宛 TEL 044-520-1518 FAX 044-543-1488 メール audition@tokyosymphony.com ホームページ <a href="https://tokyosymphony.jp">https://tokyosymphony.jp</a>	

公益財団法人 東京交響楽団 音楽監督:ジョナサン・ノット

桂冠指揮者:秋山和慶、ユベール・スダーン 正指揮者:原田慶太楼 名誉客演指揮者:大友直人

1946年東宝交響楽団として創立。文部大臣賞をはじめとした日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。川崎市、新潟市と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開する他「こども定期演奏会」等の教育プログラムも注目されている。新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。ウィーン楽友協会をはじめ海外公演も数多く行う。ITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。音楽監督ジョナサン・ノットとともに日本のオーケストラ界を牽引する存在として高く評価されており、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」では2022年に《サロメ》が第2位、23年には《エレクトラ》が第1位に選出された。(2024年現在)